



あなたに聞きたい!



奥野むつみさん

今回は越前市白山地区出身で、京友禅の染色作家として活躍されている奥野むつみさんにお話を伺いました。

文化センター(以下文)：越前市にいらっしやう頃はどんなお子さんだったのでしょうか。昔から絵を描いておられたんですか？

奥野むつみ(以下奥)：はい、小さいころから音楽と両方好きで。

文：音楽もお好きなんですね。

奥：母が音楽を教えていたので、よく吹奏楽の部活について行って、私は遊ぶ、母は教える。土曜日は吹奏楽部に混ざってよく遊びに行っていました。

文：奥野さんご自身は何かされてましたか？

奥：私は合唱団を三歳から福井ソナーベ(児童合唱団)で。約二十年ですね。

文：すごい！では越前市文化センターのホールでも発表されましたか？

奥：そうですね、発表は鯖江(市)の方が多かったのですが、(越前市)文化センターは坪田バレエスクールにちよつとだけいた時に。小学校一年生から六年生まで、仕事帰りの母が迎えにくるのをロビーで宿題しながら待っていました。くるみ割り人形とかかなあ、大ホールに出た覚えがありますね。

文：習い事たくさんですね！合唱、バレエ…。

奥：で、ピアノが一年生から六年生。めっちゃめちゃ厳しかった〜！

文：ピアノも弾かれるんですね！
奥：いやいや、ピアノは結局六年で辞めて、そこで切り替えて美術ばかり。高一の頃からかな、進路決める時点で音楽に行くか、絵画に行くかで迷って。

文：何がきっかけで絵を選んだんですか？
奥：音楽(特に歌う事)は私の親友みたいなもので

だったの、仕事にはできないと思っていました。絵を描くことは、技術として習得したいという思いも強く、仕事にできたらいいなと思っていました。

文：大学は美術の先生になろうと思って選んだんですか？

奥：その時は何も考えずに選んだんです。母からは着物の図案を描く仕事があるっていうことを言われてたんですけど、着物を作る仕事があること発想が自分にならなくて、あんまり母の言うことは聞いてなかったですね。

文：着物は昔から着ていたんですか？

奥：着物は三歳ぐらいの頃から好きで、脱がせたらす〜泣くから近所の人やウチの着物あけるよって持ってきてくれるくらい(笑)。親戚の結婚式で着物を着せられて、それです〜く好きになりました。

文：着物は好きだったけど、絵を描く事と着物はす〜くは結びつかないですか？

奥：職業でいうと着物は「着せる」って感じで「作る」までいかないんですね。大学に入って京都に来たらもつと着物が身近になって、歩いていける距離に着付け教室があって、古着屋さんもある、骨董市もあるし、福井と全然環境が違います。大学の時にだんだん「着付師」になろうと思

つたんです。着付師って大体美容師がなる仕事で、ヘアセットと化粧がセットなんです。着物だけ単独っていうのはないので、美容師の免許取らないといけない。じゃあ大学出たらその勉強に行くのか？とか悩みながら、卒業後も二年間ほど別の仕事をしながら着付けの勉強をしていました。

そうしてうちに、大学の後輩が工房に勤めていて、日本画ができて画力がある人って感じで紹介してくれて勤めだしました。日本画が活かして着付けの知識と経験も活かして、好きやめつちやいやんって。

文：天職ですね。

奥：本当にそうです。でも工房では主に雑用をするんですよ。先生のアシスタントとか、図案の整理とか。だから三年くらいで私のまま雑用してたら終わるなって思ってたので切り替えて、自分の作品を仕事終わって後に作るっていう作業をして。それが『四季』の四枚です。ちよつと柄がないと練習にならないんで、とにかく総柄。構成は図案の整理とかもしていたので出来

るし、難易度が一番高い図案を描いてそれで勉強できるようにしてました。それが一番辛かったけど、あれがなかったら今がないと思いません。

文：そこでお勤めの時に「ベラルーシ」のお仕事(日本と世界を着物で繋ぐ『KIMONOプロジェクト』)が入ってきたんですね。

奥：そうですね。工房には後継者もおらず、先生は高齢で将来が不安でした。ちょうど「音楽を着る」という着物と音楽のコラボイベントに挑戦していたので、その事をSNSで沢山発信しました。アピールをしていくうちに高山倉さん(イマジンワンワールド)が見てくれて、やりませんか、って声をかけてもらえました。

文：作品を見ると自然の柄が多いです。ベラルーシはコウノトリもいますけど花が基本、セントビンセントも植物がメインですね。

奥：自然豊かな「しらやま」で育った影響なのか、植物を描くことが大好きで細かい季節を追いたいと思っています。イマジンに関しては、与えられた国に関してもす〜く調べて挑んでいます。どちらの国もやっぱり自然が豊かなんです。セントビンセントに至っては、何もなければ、ただ自然が好きだから、というわけではなくて国がそういう国だからそれに素直に答えたって感じですね。観光雑誌で見たベラルーシや、セントビンセントのイメージにはしていません。よその国で、日本が富士山と芸者と新幹線が描かれてたら絶望するじゃないですか。そうなったらあかんと思って。ただズレすぎた国を感じてもらえないと意味がないので、そういうのは調整しましたね。

文：最近ではクリスタル柄とか「着物」の感覚としては「新しい」柄のものをお作りになられていますか、そのアイデアはどこから生まれてくるのでしょうか。

奥：今、全国的に見ていくと、普段の式服としてスーツを着る機会も減ってきているじゃないですか。オフイスカジュアルとかでネクタイもいらないようなものが増えてる中、着物も一緒に、今はそれが主流になっているんですね。だから、今の感性にフィットしていかないといけない。特に私の着物のファン層は二十代、三十代の方が多いです。やっぱりグラフィック的なものが私は「か

わいい」と思うし、そういうのを身につけたいと思うのは自然な気持ちだと思うので、そういう要素を取り入れていきます。

自分が見て「きれい」だと思うものにたぶん間違いはなくて、す〜く喜んでもらえるんですよ。そういう意味でも今の時代に合っているファッションの着物、っていうのを追求していくとあーいう柄が出てきたってことですね。

二十代、三十代の方が自分のために、自分でお金を稼いで、自分で買うんですよ。これまでの礼装って親が持たせるじゃないですか。自分の好みと違うと着ないんですよ。伝統とか歴史とかそれはす〜く大事やけど、それを古いままやっていっても意味がなくて、デザインセンスも合わせていかないといけないんです。

文：奥野さんのこれから、目標とか夢をお聞かせください。

奥：一つは必ずファッションとして提供できる着物をこの先も作り続けることですね。伝統のものだから着てくれではなくて今に合うファッションの物を作ってるから着てよ、というふうになれるように時代に合ったものを作りたい、人にあつたものを作りたいですね。

あとは、技術と美意識は絶対に残さないといけないと思っています。切り離して、伝統的な技術と感性を詰め込んだ「日本つてこんなにす〜い技術があつたの!」と、日本を誇りに思ってもらえる着物というの、職人として追求していきたいです。

文：今回初の越前市での展覧会ですが、今どんなお気持ちでしょうか。

奥：最高に幸せです。いつか地元に戻返したいと思っています。こんな機会をもらえてす〜くありがたいです。もうもはや、京都に根付いて生きていくって決まっています。京友禅は京都でやる産業なので京都には居るけど、やつぱり福井県は絶対に自分の故郷なので、つつとして大事なことですね。原点に戻るときはまた白山に戻りたいですね。

文：イマジンワンワールド・ナショナルオリンピック委員会の地域200+難民選手団(クビレ)杯の英国を構成する地域など参加する、全23着を制作するイメージした日本と世界を看物で繋ぐ『KIMONOプロジェクト』を主催する団体

越前市心る(と)キャラー・叔羅で「奥野むつみ展」が開催されます。詳しくは裏面!

越前市心る(と)キャラー・叔羅で「奥野むつみ展」が開催されます。詳しくは裏面!





福井県では
初上映!!

シネマ歌舞伎が

越前市文化センターにやってくる!

シネマ歌舞伎は、歌舞伎の舞台公演を高性能カメラで撮影しスクリーンで上映するという、松竹が開発した、映画とは全く異なる新しい映像作品です。「美」と「臨場感」に徹底的にこだわり、劇場で生の歌舞伎を観ているかのような感覚を再現することを目指しています。2003年春より開発に着手し、2005年に第1作『野田版 鼠小僧』が公開、これまでに30以上の作品を公開しています。

初めてで不安。言葉は理解できるかな? など歌舞伎が初めての方には不安もあるかもしれません。ホームページには簡単なあらすじや配役を掲載しているの、それらを読んでからシネマ歌舞伎を観るのがおすすめです。

シネマ歌舞伎

検索



ぜひ越前市文化センターでシネマ歌舞伎をおたのしみください!

今回の上映は…「三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち」と「人情噺 文七元結」です!

日時: 2021年5月22日(土)

「三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち」14時~(上映時間 138分)

「人情噺 文七元結」19時~(上映時間 87分)

※14時、19時で上映作品が変わります。ご注意ください。

会場: 越前市文化センター 大ホール

入場料: 一般 2,200円 友の会 2,000円 高校生以下 1,500円 (全席自由席)

※2 作品鑑賞の場合、それぞれにチケットが必要です。

プレイガイド: ショッピングシティベル、パリオシティ、越前市いまだて芸術館、越前市文化センター

4月15日(木)よりチケット発売開始!



越前市文化センターから足を延ばして…
越前市ふるさとギャラリー叔羅にもお越しください!

染織作家・図案家 奥野むつみ展

日時: 5月20日(木)~5月30日(日) ※5月24日(月)は休館

午前10時~午後6時 ※最終日のみ午後4時まで

会場: 越前市ふるさとギャラリー叔羅

(越前市東千福町 17-17 TEL(0778)23-5811)

日本と世界を着物で繋ぐ『KIMONO プロジェクト』で制作された振袖2点を中心に、奥野むつみさんの着物作品や図案を公開します。

日本画調の工芸的な着物から、新しく豊かな感性で描かれるファッションとしての着物など、文化の奥深さをお楽しみください。



関連 イベント

《京友禅のハンカチづくり》

日時: 5月23日(日)午前10時~、14時~(2回)

講師: 奥野むつみ氏 定員: 各回10名 要事前申込

実費: 1,500円(友禅柄入り)500円(無地)

《着物とヴァイオリンの共演 特別コンサート》

日時: 5月29日(土)14時~

演奏: 松谷由美氏(越のルビーアーティスト)

入場料: 無料 定員: 先着40名(当日10時より電話受付)

越前市文化センタージュニア合唱団

このとり日記

越前市文化センタージュニア合唱団では7期生を募集しています。

練習はいつも楽しいよ! 私たちと一緒に歌いましょう! 待ってるよ~(^)/

対象: 小学2年生~中学2年生で、練習会場に通うことができる児童・生徒

団長: 奥田健雄

副団長: 佐々木啓子

指導者: 天勝まゆみ・辻友美

伴奏: 鈴木志保子・原直美

参加費: 1,000円/月(楽譜代・ファイル購入等の費用に支出いたします)

いっしょにうたおっさー♪



♪お客様の声♪ (「宝くじおしゃべり音楽館」アンケートより抜粋) ご意見、リクエスト等ございましたら越前市文化センターまでお気軽にご連絡ください。

- ・久しぶりの「生」良かった! ・心の栄養となりました。 ・夢中に聞いていられて幸せな時間でした。 ・内容的にもバラエティに富んでいて楽しませてもらった。
- ・コロナで気落ちがちなのこの1年、たくさんのオーラを頂き、感謝です。やはり音楽は心に響き救われますね。 ・若い頃、楽しい頃を思い出しました。
- ・生で一流の方の演奏やトークを聞くことができてとても幸せでした。 ・体中に音楽が行き渡りました。しみました。 ・楽しくゆったりと満喫させていただきました。
- ・本当に久しぶりの音楽会!! スタートした時点でオーケストラの音色の柔らかさ、甘い雰囲気は夢心地になりました。
- ・素晴らしい世界へお誘いいただきましてありがとうございます!! ・生オーケストラは最高です!



※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。 <http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

※Bunvoja!掲載の全ての講座・催しについては越前市文化センターまでお問合せください。

<発行・編集> 2021年4月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL:0778-23-5057 FAX:0778-21-1975

Bunvoja!は越前和紙を使用しています